

公私諸案

明治二己巳秋九月



服部文庫
417
2187
11



公和誌安



御下問

雁金 官或真貨ヲ以テ引替シカ是カヲ啓キ悪ク海ルナリ
或之ヲ廢セシカ其種甚多シ美惡并廢理ニ於テ行ヒシ
或其貨ヲ折シテ元估ヲ以テ之ヲ買シカ是稍人情ニ近キモ能其六
ヲ得スシ及テ怨謗ヲ連カシ

上下困弊加之互市ノ際紛伝毎キ下能ク之 皇威ヲ振立ホカラス
贖金天下ニ蔓延ス常今ノ一大患ナリ 早ク其本ヲ絶スハアラス之ヲ絶ツ
ハ痛リ之ヲ窮治セシハアラス今 聖明ノ時ニ當テ黎民其生ヲ聊セサ
ル者ハ雁金之カ禍ヲ為セハナリ 御下問ノ第一事ノ了ラシク之ヲ廢
スル決シテ為スヘカラス之ヲ廢セハ天下復再ヒ乱レシ第一事 眞貨ヲ以テ
引替ル是事上策ナリ 利初メ大坂ニ 官鑄アリシ貨幣甚漫惡ナリトノ是
レ奸吏ノ手ニ出ツト雖苟モ 官鑄ノ名アリ時ハ是ヲ眞貨ニ引替賜ラ
サレハ信ヲ失フ上クル道信ヲ下ニ失 爲一日モ立ツヘカラサル先哲ノ格
言 官鑄ノ眞金ノ私鑄ノ物ニ於テモ彼 官鑄ノ品同 等以上 固ヨリ引替サ
ルヲ得ス之ヲ推ス時ハ同等以下ノ物ト虽之ヲ廢棄恐ハ不公平ニ似ク然

リト雖天下ノ溢要全多シ^{加テ}尽リ之ヲ真貨ニ引替ル其真貨治スルヤ不ヨヤシ知ラス
 故ニ第ニ事ノ其質ヲ析テ元估ヲ以テ之ヲ買フノ策ヲ用ヒサルヲ得ス但東
 官鑄^ノ者^ハ溢要ト雖真貨ヲ以テ引替賜^ハハアラス是其名ヲ實ニ
 信^ラ此民^ニ取ル所以ナリ質ヲ析テ元估ヲ以テ買フノ方ハ大藏省ノ職^{ナリ}
 ナレハ該省ニ命セラレ^テ其方法ヲ講究セシテ上ラシメ而ル後公議^ニ付シ
 給ハ、自ラ遺^テ算ナカルヘシ
 其^上所^ヲ
 一仄^カ聞^代若松縣ニテ今^テ以テ溢要金ヲ鑄ルト此^ノ輒^信誰^ケレト萬^ニ
 モ實^ナラハ毒^ヲ流^ス殊^ニ甚^シカラン湯^ノ滄^ルヲ欲セハ新^ノ皮^ヲ成^スルニ如^クス若
 新^ノ増^行徒^ニ湯^ヲ揚^ルハ^ハカラス^モ其^本ヲ^純玉^ハス^ハハ^ハ無^益也
 一私鑄ノ禁嚴ニ設ケサルハカラス^新始^ニ網^紀類^也時^ニ方^テ私鑄^スル者^輒
 刑^ヲ施^シ雖^シト雖^能ク^之ヲ窮^治シ罰^スニ贖^刑ヲ以テシ其鑄造^ノ
 多^ク零^ニ從^テ之ヲ買フヘキ元估^ヲ償^ハシムヘシ
 最^嚴

○九月十日 御下向寛刑

今也 大改更^ル如^キ數^百年^武斷^ノ陋^習ヲ除^去リ寛^恕ノ政^ニ從^テ忠^厚ノ
 俗^ニ復^シ萬^民ヲ^所ヲ得^セシメ 御^國威^ヲ振^起サ^セラ^シト^律凡^ハ八^百餘^ノ
 殺^強盜^放火^等ノ外^異常^法ヲ^犯ス^ニ非^サル^ヨリ^ハ大^抵寛^恕以^テ流^{以下}ノ罰^ニ
 二^處セ^シト^ス鳴^呼 聖^旨自^今ノ^廣濶^{ナル}天^覆地^載何^者カ^感泣^セサ^{ラン}殺^スハ^不殺^ハ也
 好^生ノ^聖德^天覆^地載^何者^カ感^泣セ^サラン^至治^ノ隆^期不^日ノ^期ス^ハキ^也其^狀
 願^ハ早^ク茲^旨ヲ^體シ^テ新^律ヲ^撰定^シテ^對シ^テ抑^刑ノ^放ヲ^助ル^所之^ヲ
 殺^ス殺^サシ^テガ^為也^臨下^以簡^御衆^以寛^德教^以テ^之化^シ刑^罰之^輕重^刑
 民^驩虞^域ニ^入ラ^ハ刑^措不^用是^ヲ期^テ無^刑ト^云フ^謹陳^刑四^討世^輕重^刑
 時^ノ隆^隆谷^ノ醇^淳今^テ放^火ノ^刑舊^政三^府ニ^在テ^ハ刑^罰之^輕重^刑
 積^聚之^物ヲ^故燒^モト^因而^盜取^財物^者ト^ニ非^ルヨリ^ハ罪^不至^死
 皇^朝律^殘破^シテ^其詳^ヲ得^スト^雖モ^人舍^屋及^積聚^之物^ヲ故^燒テ^盜者^ハ
 計^所燒^減價^併贓^以強^盜論^スル^ヨシ^賊盜^律ニ^見ユ^又中^原章^任抄^ニ雜^律
 律^ト寶^龜延^曆格^ト引^テ曰^如律^條者^依所^燒之^贓或^處流^罪或^處
 處^之五^年刑^之重^刑

死罪而實、龜尾厩格不論官任、等衆格致者ト見ユ之ヲ以テ觀ハ大廢
律ヲ定ムル所大異知ルヘシ律ヲ判定セラレシヨリ宝龜尾厩ニ至ル
其刑重シ世乱ニ随テ放火ノ鑿多キヲ知ル武新ノ時ニ在テハ其
向ハシテ水滌ヲ施スモ可ナリ 王政ノ今日ニ在テハ又其刑ヲ廢シテ斬
トシ又其差ヲ論シテ徳三年ト爲シ玉ハシモ可然ク於ト表ヲ存候

○恭テ大學別當ヨリテ 朝裁ノ字規綱領ニ 皇國子神ヲ祭リ孔高祖奠
御廢止ノ儀何等ノ所見ヲ以テ如此説ヲ唱ルヤラシ賤臣ノ解セザル所ナリ抑孔子皇國
ノ人ト雖倫理綱常ノ彝ヨリ治國平天下ノ道ニ至ル迄皆日月由テ傳ルル処ナリ
皇國ノ聖天子其ノ可崇崇而不可廢ヲ識鑒シシク其字ヲ採リ其ノ道ヲ
フハ彼ヲ貴ヒ内ヲ賤シメ玉フニ非ス 彼ト我ト風土ノ相似ク人情ノ相符セル
皇國ニ在ラモ一日モ其道ヲ闕ヘカフルヲスナリ故ニ其報ニ起テ是ヲ大學ニ祀リ
今所傳ノ時其從テ廢シ玉ハシムクモ 應神天皇ヲ始メ夫ナリ文明ニ至リ

列聖在天ノ神聖ニ被爲對其其謂之何^{今夫ニテスナリ}人々若シ倫ノ道ヲ正スヘキ事ニ其神法今滿
列聖ノ遺典ニ本ウクヘキ旨 聖諭アリ 微臣等敢
テ朕膺シテ不忘今 皇祖ノ遺典ニ戻リ 明天子ノ聖詔ニ乖ルル言
ヲ聞ク敢テ陳死シテ其不佞ヲ辨セシムアラズ 仰願ク博士ノ輩ヲ遣テ
アツテ早ク規則ヲ改シメ玉ハンコフ

死ヲ冒シテ其不佞ヲ辨セシムアラズ且也漢籍ヲ素讀ス何ノ害有テ之ヲ廢ス
之ヲ廢シテ何ノ益アル素讀ヲユルサスシテ質向ヲ責ム不戒觀成ノ説ナリ此規則
一タヒ立ハ生民漸ク春思愚トナラン若シ童中ヨリ漢籍ニ習ハ彼ヲ貴テ我ヲ賤
モ 皇國體ニ昏ク 御國體ヲ汗スフアトノ嫌ヲ以テ之ヲ廢ス外ナシハ西洋
ノ書モ亦素讀ヲ廢スヘシ人民 御國體ノ尊キヲ童中ノ時ヨリ知シトスル其
體ノ素讀ヲ廢スル事ニ在ラズテ 教ヲ立ルル何ニ在ルニ初集漢南院ノ日抄多クモ
詔ヲ下シ賜リ 皇祖ノ遺典ニ本ウクヘキ旨 聖諭アリ 微臣等敢
テ朕膺シテ不忘今 皇祖ノ遺典ニ戻リ 明天子ノ聖詔ニ乖ルル言
ヲ聞ク敢テ陳死シテ其不佞ヲ辨セシムアラズ 仰願ク博士ノ輩ヲ遣テ
アツテ早ク規則ヲ改シメ玉ハンコフ

○海陸二軍 張行下問

一軍ニ係人 陸軍千八百人 此三百三十四大隊半

一隊カ 四十人 五十人

〇一カ石

二十五人

十カ石

四百人 五百人

〇十カ石

二百五十人

百カ石

四千人 五千人

〇百カ石

二千五百人

千カ石

四万人 五万人

〇千カ石

二万五千人

諸藩物高千八百七十六萬石ニテ所出 七万五千〇四十人
七万五千人ハ 二百十大隊 一大隊三百五十人トシテ二百十四大隊トシテ
百八十七大隊トシテ 小隊五百人トシテ 二百十大隊トシテ

〇一カ石

半隊 二十五人

一大隊三百五十人トシテ

百三十四大隊

惣計 四万六千九百人

但シ五十人小隊

四万六千九百人ハ

百三十四大隊トシテ

〇千石

五人

十カ石

五十人

十カ石

五百人

中下大夫九カ石ト見積 所出 三千人

此七大隊半

先五大隊ト見積

〇千五大隊ニ以兩京ノ宿衛兵トス

毎年交替

諸藩所出大隊輪番ニテ十一年

天皇御在所ニ十大隊ヲ置

留守ニ五大隊ヲ留

・東京大都會ナリ 所存所ニテ之ル時モ五大隊ニテハ是スヘシ中下大夫ノ

五大隊ニ過タル者ハ仍テ東京ノ常備兵トス猶不ハ西京 御座所ヨリ

二大隊ヲ取ル 十大大隊六千人ノ食 但シ日七合五カ 一五十九カニテ 一升ニテ 二万二千二百カ石

・諸藩ヨリ出所ノ衛兵器械服食皆公解ヨリ辨ス 彈藥大砲 省クテ

・諸藩沿海要地ニ守ニ在ル者ハ皆其地方ノ防備アリ其兵員ノ定額

一カ石

一カ石

其餘者 諸藩ノ守衛ヨリ

是ハ各藩其之備ニ備テ徴發ニ充テ肥筑ノ長崎ニ於テ陸奥ノ箱館ニ

類ニ其地方ニ番上スルモアヘシ

〇中下大夫ハ米地ニ守兵ニ故ニ定額ヲ多クシ 毎ニ東京ノ常備兵トス

〇海軍軍艦ヲ得ルニ随テ其數額ヲ定ムヘシ 常備海軍ハ五大隊 藩軍

軍艦ニ臨テ隨進ノ地ノ兵ヲ徴發スルモ自在ナルヘシ

〇海軍必藩兵ヲ用エヘシ 水師ノ兵ヲ海軍ニ用ヒ 陸軍ノ兵ヲ用ヒス之ヲ

海陸軍備ヲ更張スル其有ニ因テ

大抵海軍ノ常備五大隊ト積リ輪流交替スル時ニ三年ニ一周ス
然レテ諸藩ヨリ常備ノ賦シ出ス二十餘年間ニ三度ナリ
軍艦ハ外國ヨリ買入ルコト多ク傳テ我手ニ成ルヘシ

海陸軍備ヲ更張スル其有ニ因テ
先ツ其兵賦ヲ輕ク定メ之ヲ
其有ニ因ルハ諸兵ヲ用ルニ在リ
先ツ其兵賦ヲ輕ク定メ之ヲ
疾苦怨望ノ聲ヲ聞クハ兵員不實ノ弊ニ至ル
職權ノ守リ有リ海海港要地ノ守有リ
一 中下大夫 兵員ヲ出サシメ
一 中下大夫 兵員ヲ出サシメ
一 中下大夫 兵員ヲ出サシメ

長上ニテ 常備ノ兵タラシム 器械服食 官ヲ給フ

一 諸藩 一 万石以上ノ藩ノ兵員ヲ出サシメ
一 諸藩 一 万石以上ノ藩ノ兵員ヲ出サシメ
一 諸藩 一 万石以上ノ藩ノ兵員ヲ出サシメ

一 諸藩 一 万石以上ノ藩ノ兵員ヲ出サシメ
一 諸藩 一 万石以上ノ藩ノ兵員ヲ出サシメ
一 諸藩 一 万石以上ノ藩ノ兵員ヲ出サシメ

一 諸藩 一 万石以上ノ藩ノ兵員ヲ出サシメ
一 諸藩 一 万石以上ノ藩ノ兵員ヲ出サシメ
一 諸藩 一 万石以上ノ藩ノ兵員ヲ出サシメ

一 諸藩 一 万石以上ノ藩ノ兵員ヲ出サシメ
一 諸藩 一 万石以上ノ藩ノ兵員ヲ出サシメ
一 諸藩 一 万石以上ノ藩ノ兵員ヲ出サシメ

○ 矯當世子内ノ顧問ニテ板金併

三子 我國ニ用ル時ハ... 皇國ノ學アリト云フ第一ノ着眼先ウ我心ヲ獲ル
者セ一室一名ニスルトニ察ニ名ニスルトハ... 先ウ皇漢二途ニアラサ
ルヲ人ニ得セ一室一名ナルヲ勿論ナルハ方今テ、皇漢者切カ、皇國固有ノ道則
ニ在テ漢學ヲ假ラスト、唱ヘ檀ニ漢ヲ抑作スル如キ時ハ二途ニ名ニカス元氣
持テ皇漢全ク一途ニ皇漢ヲ待テ時皇漢ハ皇漢ヲ待テ其途可行徒ラニ皇
ヲ守テ漢ヲ不取、其安蒙漢ヲ取テ皇ヲ不講、其安妄彼本尼平曰軍
比皆漢ノ力ヲ假リテ我道ヲ張ル者アリ彼輩ヲシテ漢學ナカラシム、何ソ我道ヲ張ル
ヲ得、是ハ不取也今ノ皇漢者何量少秋學ヲ西漢ヲ以テ我道ヲ光大ニ
スルヲ知ラズ、徒ニ之ヲ排斥シテ我道ヲ愚ニス、願ハ彼曲學者ヲシテ皇漢ニ
途ニ非サルヲ知ラシメ、皇漢ヲ開張セテ、知ル時ハ皇漢ヲ一途ニ皇漢ニ
規則上ニ執テ、皇漢ヲ開張セテ、皇漢ヲ一途ニ皇漢ニ
學者此意ヲ人ニ得セシハ合併スル無益ニ察ニ名ニスルモ亦無益、大學校ヲ建ルモ亦無
益歟

○ 十月十九日下向

北蝦夷、往ル者ノ建言ヲ下ケニ相ナリ也

北地ヨリ建言、下向謹後仕マシ、運條、遠時、津策、威風、在事、就中、出張、向
一身ノ宗、厚ヲ後ニシテ、彼ノ曲ヲ唱シ、大ハ州ノ安危ヲ先ニシテ、我ニ直ヲ取ルニ在リト
云ハル、一、直ニ着眼ノ方、一、再、其策、逐條、略、津策、威風、仕マシ、(北地)津策
其地ヲ位置、其利害ヲ講明セサシ、果ソ其言ノ可シ、其策ノ行ルル(キヤ)ヲ知ラズ
但内地當今ノ形勢ヲ以テ論、時ハ三方石以下ノ諸藩、又、轉村、ハ、津策、威風、仕マシ、
洋人決シテ偏フヘカラス、故何如トナシ、諸藩、殿、極ル、山、宣、遠、地、ニ、至、テ、開、拓、ス、ル、力
アラシヤ、其、費、ヲ、官、ニ、仰、カ、サ、ル、ヲ、得、セ、官、モ、亦、之、ヲ、給、ス、ル、ヲ、得、玉、ハ、シ、願、フ、者、有
ラ、之、ヲ、允、准、シ、テ、可、ナリ、官、ヨリ、命、ス、ル、津、不、リ、ナリ、且、其、所、謂、洋、人、者、英、佛、諸、番、也、
指、ス、カ、折、文、ニ、所、謂、同盟、諸、藩、ト、云、ハ、ル、モ、亦、是、欲、英、佛、ヲ、以、テ、直、ニ、頼、ム、可、キ、者、ト、ス、ニ
似、タリ、彼、以、テ、之、ヲ、觀、ル、ニ、彼、等、諸、藩、百、端、決、シ、テ、不、可、救、者、也、之、ヲ、以、テ、我、ノ、掌、上
ニ、措、キ、目、使、氣、措、ス、ル、則、可、ナリ、不、可、則、其、力、ヲ、借、ル、カ、ラ、ズ、又、五、畿、八、道、ノ、全、カ、ヲ、以、テ、彼
ヲ、壓、倒、セ、ト、ス、今、獨、全、國、ノ、力、ヲ、獨、リ、北、地、ニ、尽、シ、テ、内地、空、虛、ナ、ラ、ハ、臣、等、ク、ハ、四、方、八、面
海、ニ、臨、ス、ル、大、ハ、州、不、虞、ノ、戒、甚、キ、ヲ、保、サ、ル、中、下、大、夫、ノ、弊、モ、臣、等、カ、獻、壽、以、テ、東京
ノ、常、備、兵、ト、セ、ト、ス、先、日、下、向、ニ、奏、答、ス、ル、カ、如、シ、在、現、見、ル、所、ヲ、以、テ、云、フ、ニ、若、其、大、弊

日指元使
度高

此度減祿ヲ始^{士等}諸凡員^ノ省クニ付テハ藩中必^シ依^ル信^トキ^ヲ得^ス日^之依^テ藩

内限^リ御取扱^ノ等級^ヲ定^メ右^ニ進退^スル時^ハ役^ヲ免^セラ^レタル者^モ怨恨^ナ

ク諸人^ノ勉勵^モ成^ル候^事細表^ニ記^ス大垣^ニモ^モ等級^ヲ定^メテ

以後^ハ御加増^トス^ルヨク^クノ^事官許^ヲ受^サシ^ハ出来^ス又^ハ卒族^{ヨリ}士^ノ誤^レ上^ル

一職^ニ職俸^{アレ}モ^モ等級^ニ其^ノ給俸^ナシト定^ム又^ハ等級^ガリ^テ所^ノ下^ニ在^リテ^モ御^ノ事

但^シ勤勞^ノ上^ニ致^シタル者^ハ相^ノ應^ル月俸^ヲ賜^ルシ^コレ^モ等級^ニヨ^リテ^ハ次^ノ

シテ可^ク然^ル

右^ノ等級^ノ儀^ハ朝廷^ニモ^モ仰^上置^シ可^ク然^ル

知^事ヨ^リ藩内^ノ者^取扱^柄ニ^テ等級^ヲ設^ケ置^キ進退^點陟^ニ便^シ士^ノ氣^鼓舞^ス

仕^度モ^モ御^ノ事^ニ進^上置^テ可^ク然^ル

一司計^司法^ノ少^參事^ハ政廳^ニ加入^シ兼^セテ^モ可^ク然^ル在^ル政廳^ノ少^參事^三人^ニス^ル

ヲ得^テ又^ハ学校^ノ少^參事^ヲ政廳^ニ兼^セ加入^スル時^ハ四人^ニス^ルモ^モ得^ヘシ^尤進^ニ事

則^シ政廳^事間^ニ九^時別^ニシ^テモ^モ可^ク然^ル

一司兵^ハ少^參權^少内^一人^ニテ^モ御^ノ事^ニ大^屬少^屬ノ^類ヲ^置テ^モ可^ク然^ル以^テ末^ハ所^ノ人^取扱^也

調^練等^ノ事^ハ布告^進退^皆司兵^{ヨリ}出^スヘ^シ傳^達ヨ^リ出^スヘ^カラス^兵隊^ノ召^取モ^モ司

一司計^中主^貨主^穀金^穀万^ニ係^ルエ^ハ別^ニ役^所ヲ^設ケ^ス其^代リ^用度^管理^紙

幣^ヲ置^ヘシ

一浦^四ハ^ハ監察^ノ大^屬ト^スヘ^キ次^元ト^孤立^シタル^職ナ^レモ^モ真^ノ監察^ハ浦^四ナ^リ因

テ表^立テ^テ監察^ノ大^屬ト^スヘ^シ大^小性^{ヨリ}勤^ルル^ハ少^屬ト^スヘ^キ次^少屬^年ニ^モモ^モ操^ナ

一學校^ノ少^參權^少内^一人^ニテ^モ御^ノ事^ニ大^屬少^屬ノ^類ヲ^置テ^モ可^ク然^ル以^テ末^ハ所^ノ人^取扱^也

一播州^中支^配飛^地ノ^事右^ノ申^立司^民ノ^權少^參事^ヲ一^員増^シテ^モ可^ク然^ル

此度減祿

以後

職俸

但

右

知事

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

易三十一(シ)尤是近奉行ノ名に権少奉ノ官職ヲ受ルハ好ム(カラサレ)此所一新ノ所
変制ヲ以テ説諭ス(シ)

職制表(朝廷制)

職制表ニ政度制ニテ編タル諸藩ノ制ノ由記書モ附セリ此之ニ所決定ニテ仰出ル
ヤ否ヲ不知ト雖大凡其體ニ倣ヒテ子細アルコト思案ニ別紙表而ノ通ニ組ニテ
置キ國民司計司兵司法ノ名ニヤリ民政會計軍務執法ト改シ置キ即布告上ニ
テ表通リノ名ニ改メテ改メテ又変リルヤ布告ル時ハ度ニ煩ハ
シリ後大凡以下ノ処ニ矢張表通リニ改シ候方ニ然ル候
今計大凡以下ノ處ニ別紙表通リニ改メテ改メテ又変リルヤ布告ル時ハ度ニ煩ハ
シリ後大凡以下ノ處ニ矢張表通リニ改シ候方ニ然ル候

職制表ニ政度制ニテ編タル諸藩ノ制ノ由記書モ附セリ此之ニ所決定ニテ仰出ル

職制表ニ政度制ニテ編タル諸藩ノ制ノ由記書モ附セリ此之ニ所決定ニテ仰出ル

職制表ニ政度制ニテ編タル諸藩ノ制ノ由記書モ附セリ此之ニ所決定ニテ仰出ル

職制表ニ政度制ニテ編タル諸藩ノ制ノ由記書モ附セリ此之ニ所決定ニテ仰出ル

職制表ニ政度制ニテ編タル諸藩ノ制ノ由記書モ附セリ此之ニ所決定ニテ仰出ル

一 所定職制ニテ編タル諸藩ノ制ノ由記書モ附セリ此之ニ所決定ニテ仰出ル

一 所定職制ニテ編タル諸藩ノ制ノ由記書モ附セリ此之ニ所決定ニテ仰出ル

一 所定職制ニテ編タル諸藩ノ制ノ由記書モ附セリ此之ニ所決定ニテ仰出ル

一 所定職制ニテ編タル諸藩ノ制ノ由記書モ附セリ此之ニ所決定ニテ仰出ル

一 所定職制ニテ編タル諸藩ノ制ノ由記書モ附セリ此之ニ所決定ニテ仰出ル

一 所定職制ニテ編タル諸藩ノ制ノ由記書モ附セリ此之ニ所決定ニテ仰出ル

一 所定職制ニテ編タル諸藩ノ制ノ由記書モ附セリ此之ニ所決定ニテ仰出ル

一 所定職制ニテ編タル諸藩ノ制ノ由記書モ附セリ此之ニ所決定ニテ仰出ル

一 所定職制ニテ編タル諸藩ノ制ノ由記書モ附セリ此之ニ所決定ニテ仰出ル

一 所定職制ニテ編タル諸藩ノ制ノ由記書モ附セリ此之ニ所決定ニテ仰出ル

一 所定職制ニテ編タル諸藩ノ制ノ由記書モ附セリ此之ニ所決定ニテ仰出ル

一 所定職制ニテ編タル諸藩ノ制ノ由記書モ附セリ此之ニ所決定ニテ仰出ル

一 所定職制ニテ編タル諸藩ノ制ノ由記書モ附セリ此之ニ所決定ニテ仰出ル

一 所定職制ニテ編タル諸藩ノ制ノ由記書モ附セリ此之ニ所決定ニテ仰出ル

一 所定職制ニテ編タル諸藩ノ制ノ由記書モ附セリ此之ニ所決定ニテ仰出ル

一 所定職制ニテ編タル諸藩ノ制ノ由記書モ附セリ此之ニ所決定ニテ仰出ル

一 簿務公用人、如何、名可有之、此名不可知ヤリ、公用人ニテ可然、公用人ニモ
在府ノ者、不在簿ノ者、可有之、欽、公用人ニモ、權少、身ノ、（此等ノ人、大属ノ職、
モアル、リ候）

一 簿務公用書史、名同前、（是等ノ人、
モアル、リ候）

一 公簿公用人、筆生、名是モイカ、敷見、候、孰モ只、公用人、一、ニテ、可然、候

一 右書史、字、字家、録ニ、森山、羊、云、書史、ト被、命、候、右等、ハ、皆、書史、ノ、所、心得、ニ

由、左、候、式、文字、誤、ニ、候、式、家、録、ノ、敷、官、書、史、ニ、候、職、原、抄、ハ、書、史、ト、認、意、

候、一、氏、今、ニ、書、史、ト、有、之、候、大、史、少、史、大、令、史、少、令、史、内、記、外、記、（此等ノ人、
モアル、リ候）

右、ニ、書、史、ト、極、ニ、候、故、（此等ノ人、
モアル、リ候）

一 書史、ト、認、意、方、可、（此等ノ人、
モアル、リ候）

一 家、録、ノ、各、（此等ノ人、
モアル、リ候）

一 除、キ、政、廳、ノ、少、属、ニ、被、命、（此等ノ人、
モアル、リ候）

一 執法、大、属、書、史、兼、ト、云、フ、名、前、同、様、ニ、テ、如何、敷、相、聞、候

一 公、解、（此等ノ人、
モアル、リ候）

一 諸、局、用、使、者、如何、アル、キ、是、ハ、朝廷、使、部、ノ、役、ニ、テ、イ、ツ、ク、役、所、モ、使、部、アル、ト、令

ニ、モ、見、エ、ヤ、リ、使、部、ト、ナ、サ、レ、テ、ハ、イ、カ、

一 諸、局、用、使、者、（此等ノ人、
モアル、リ候）

一 其、等、（此等ノ人、
モアル、リ候）

一 職、檢、校、使、部、ト、テ、使、部、ノ、取、締、フ、ス、ル、ト、見、エ、（此等ノ人、
モアル、リ候）

一 身、ト、モ、宜、シ、只、今、ハ、免、モ、用、モ、追、（此等ノ人、
モアル、リ候）

一 来、客、アル、時、入、用、ナ、レ、（此等ノ人、
モアル、リ候）

一 以、來、（此等ノ人、
モアル、リ候）

一 會、（此等ノ人、
モアル、リ候）

一 大、属、（此等ノ人、
モアル、リ候）

一 權、大、属、（此等ノ人、
モアル、リ候）

一 少、属、（此等ノ人、
モアル、リ候）

一 大、属、（此等ノ人、
モアル、リ候）

一 權、大、属、（此等ノ人、
モアル、リ候）

一 少、属、（此等ノ人、
モアル、リ候）

一 大、属、（此等ノ人、
モアル、リ候）

一 權、大、属、（此等ノ人、
モアル、リ候）

一 少、属、（此等ノ人、
モアル、リ候）

一 大、属、（此等ノ人、
モアル、リ候）

○所下向海軍教場規模差議

教場規模方異其人材

其學年也臣在

謹更世人海軍ヲ言フ者西洋ニ若ク物アルハカラス其學年也臣在巨艦アリ加ルニ其志

氣ノ迅速ナル者東戰西戰百戦練シテ長ヲ存シ短ヲ棄以テ今日ノ軍

制ヲ成ス宜ク講明セシハアラズ夫皇國ハ四面皆海ナリ然ルニ古來海軍ノ方ヲ

講ス者アラズ後世僅カニ其一端ヲ論ス者アルモ一屯取ル所ナシ巨艦大船ナレハナリ

漢土ノ兵家孫吳以下亦之ニ及ラズ獨リ威南塘ノ法可觀ト雖古西洋ノ規模ニ

及ルハ以テ西洋ノ方ヲ講明シテ其長ヲ取ラズ以テ其短ヲ去ラズ其教場ノ如キ規模方

法ノ如キ比自來由ハ愚按スルニ教場ヲ開セトモ先ツ洋學家海軍ヲ解シ

先者命セラシ大凡其規模ヲ成シ洋教師ヲ西洋ニ雇ヒテ傳習セシメ

玉ハ數年ナラスニテ必キ熟練者ヲ人材如雲トシ其所以往ハ自國ニ

孰ニ随テ取捨損益シテ必可觀者トシ萬國ニ觀サシモ自在ナルニシテ

大意 洋人ノ在リテ教師トシ規模方法オノカラ學年也

○私に依りて海軍教場ノ事トシテ其法ハ西洋ノ如クナリテ其所以

仕合キ物ニ法ニ依リテ一店ノ中ニシテハ其所以

海軍教場ノ事トシテ其法ハ西洋ノ如クナリテ其所以

仕合キ物ニ法ニ依リテ一店ノ中ニシテハ其所以

海軍教場ノ事トシテ其法ハ西洋ノ如クナリテ其所以

仕合キ物ニ法ニ依リテ一店ノ中ニシテハ其所以

迄書ノ天下ノ物情ニ關係仕候事非請滿何事申開院ノ御期限
御布令ニ御不信ニ屬シ天下ノ物議相申間敷寒心仕候事
御座候

昨嘉儀ニ申開院被仰出候申所廢止ノ斷ニ有ニ或一連ノ物議
汗騰仕去一氏表申開院ノ旨ニ前以所處可相成類ニ旨決ニテ御不
信ノ儀ニ被為在間敷ト孰モ御申仕奉侍今日ニ及候最早三月モ
半ニ相成ニ今以何ノ申布告モ不奉侍候右ニ御都合被為在
儀ト奉旨家察ニ得共免前人心疑惑ニ生シ物議汗騰可仕
柳集評院ノ儀ト御一新ノ始專論公儀ヲ被為取立御美意
ヨリ被設候儀ニテ於諸藩モ消漏ノ裨補ニ奉備度心底ニ去
所廢止ハ勿論申開院ノ儀ニ違違違違違違違違違違違違違違
座候儀ト申開院ノ儀ト御一新ノ始專論公儀ヲ被為取立御美意
候テハ舊儀ノ大障自然御不信ニ屬シ天下ノ物議相申間敷寒心仕候

○田中貞氏三月廿五日申開院ノ旨ニ前以所處可相成類ニ旨決ニテ御不信ノ儀ニ被為在間敷ト孰モ御申仕奉侍今日ニ及候最早三月モ半ニ相成ニ今以何ノ申布告モ不奉侍候右ニ御都合被為在儀ト奉旨家察ニ得共免前人心疑惑ニ生シ物議汗騰可仕柳集評院ノ儀ト御一新ノ始專論公儀ヲ被為取立御美意ヨリ被設候儀ニテ於諸藩モ消漏ノ裨補ニ奉備度心底ニ去所廢止ハ勿論申開院ノ儀ニ違違違違違違違違違違違違違違座候儀ト申開院ノ儀ト御一新ノ始專論公儀ヲ被為取立御美意候テハ舊儀ノ大障自然御不信ニ屬シ天下ノ物議相申間敷寒心仕候

一 右ノ旨申開院ノ旨ニ前以所處可相成類ニ旨決ニテ御不信ノ儀ニ被為在間敷ト孰モ御申仕奉侍今日ニ及候最早三月モ半ニ相成ニ今以何ノ申布告モ不奉侍候右ニ御都合被為在儀ト奉旨家察ニ得共免前人心疑惑ニ生シ物議汗騰可仕柳集評院ノ儀ト御一新ノ始專論公儀ヲ被為取立御美意ヨリ被設候儀ニテ於諸藩モ消漏ノ裨補ニ奉備度心底ニ去所廢止ハ勿論申開院ノ儀ニ違違違違違違違違違違違違違違座候儀ト申開院ノ儀ト御一新ノ始專論公儀ヲ被為取立御美意候テハ舊儀ノ大障自然御不信ニ屬シ天下ノ物議相申間敷寒心仕候

○宣教ノ材申開院ノ旨ニ前以所處可相成類ニ旨決ニテ御不信ノ儀ニ被為在間敷ト孰モ御申仕奉侍今日ニ及候最早三月モ半ニ相成ニ今以何ノ申布告モ不奉侍候右ニ御都合被為在儀ト奉旨家察ニ得共免前人心疑惑ニ生シ物議汗騰可仕柳集評院ノ儀ト御一新ノ始專論公儀ヲ被為取立御美意ヨリ被設候儀ニテ於諸藩モ消漏ノ裨補ニ奉備度心底ニ去所廢止ハ勿論申開院ノ儀ニ違違違違違違違違違違違違違違座候儀ト申開院ノ儀ト御一新ノ始專論公儀ヲ被為取立御美意候テハ舊儀ノ大障自然御不信ニ屬シ天下ノ物議相申間敷寒心仕候

今世諸事其宜比適用之諸事相之狀也中亦係相成法之部有
予誠意諸事其之自體其有自表其相以之勿論之何事也物多心身
為其之申設也其心之不可不申於其心也其心之申設也其心之
諸事其心之申設也其心之申設也其心之申設也其心之申設也
示其心之申設也其心之申設也其心之申設也其心之申設也
示其心之申設也其心之申設也其心之申設也其心之申設也

一 今世之諸事其宜比適用之諸事相之狀也中亦係相成法之部有
予誠意諸事其之自體其有自表其相以之勿論之何事也物多心身
為其之申設也其心之不可不申於其心也其心之申設也其心之
諸事其心之申設也其心之申設也其心之申設也其心之申設也
示其心之申設也其心之申設也其心之申設也其心之申設也
示其心之申設也其心之申設也其心之申設也其心之申設也

一 今世之諸事其宜比適用之諸事相之狀也中亦係相成法之部有
予誠意諸事其之自體其有自表其相以之勿論之何事也物多心身
為其之申設也其心之不可不申於其心也其心之申設也其心之
諸事其心之申設也其心之申設也其心之申設也其心之申設也
示其心之申設也其心之申設也其心之申設也其心之申設也
示其心之申設也其心之申設也其心之申設也其心之申設也

昔の如く人毎に及ぶと上りて表旗をさすも、
此後佛土の如く、
眼病一已し苦情が外國人ヲ仇讎と爲り、
此末物の能事、
即毛示すも、
尼崎商會

唐平九月
停友
り

〇度量考
一 度

尺ヲ改ん地球日中圍ノ周圍ニ換ルニ合ルト否サルト論スル頗ル精密
起ス最精微ナルニ故ニ古ハ權衡ノ中ナル者ヲ以テ數ヲ起ス是ノ密ニ似テ疎ナ
リト雖亦法ヲ精微ニ取リテ者ナリ夫地球ハ至大ナリ實例ト雖未能看實丈
量スルヲ能ス理ヲ窮メテ其獲取ヲ知故ニ丈尺ヲ數ルニ至テハ諸家一定ノ説
アルヲ聞カス故ニ兩局ノ新定スルハ精微ヲ極メテ遺憾ナカレト雖未其當
ヲ得ヤ否ヲ知ラズ從前ノ曲尺ト云トモ其ニ當ヲ得ヤ否ヲ知ラズ若シ奇
零ノ有等論セバ曲尺ノ一尺ハ日中圍周圍ノ一億三千九十三万二千六百
一三三度ニ度ニ三十六万六千四百八十尺試ニ東木東ノ一尺ハ日中圍周圍
亦同ノ事也從前ノ法ニ換テ周圍ヲ算スルハ兼兼向ニシテ二千九十八万八千八百
間ノ事也從前ノ法ニ換テ周圍ヲ算スルハ兼兼向ニシテ二千九十八万八千八百
ノ事也從前ノ法ニ換テ周圍ヲ算スルハ兼兼向ニシテ二千九十八万八千八百
西洋各國皆一定ナル各國一様ナラシムル時何リメトハ合ト否サルト論セ况

制度局ノ比較ニ於テハ曲尺ノ三八三寸ニ當ル時三三ヲ乘シテメトルヲ得ル亦同ト
之ハ何必改作セシ

一第ニ向

捕論ヲ説前後ニ具ス

一第ニ向

田畝推論ニ至テハ容易ニ論ニ易カラス大蔵省ノ議頗ル古ノ名匠ノ見
今行フ処ト大運庭ナシ然レモ其間トハ比新道里ヨリ畝歩ニ至テ皆其意ヲ
改ムルヲ以平民必便トセシ制度局ノ議差最多計ヲ以五尺九寸ヲ以田畝ノ一步トスル大ニ
人情ヲ酌ムト雖獨リ田畝ノミ歩ヲ殊ニスルハ宅地ヲ度ルニ至テ又大ニ運庭ヲ最不
便ニシテ必行レシ且ヤ田畝ヲ検査スル民ノ最悪ム処ナリ況ヤ田畝歩ヨリ増加ス
時ヤヤ

一量

制度局ノ議最詳密ナリ何ソ蒸餾水ノ容量ヲ向シ然レモ其間ニ増加スル少ナリトモ
氏便トセシ且把持ニ不便ナラシク

一衡

大蔵省ノ議法ヲ蒸餾水ニ起ス精微ニ似タリ然レモ即チケラムト有テスルニ非ス
何必改作セシ

右度量衡ノ見今害アル儀ニハハ改モ可然レモ其害アルヲ見ス又
交易上ニ妨アラハ文明ノ今日各國一様ナルハキニ在モコレナキヲ現ル交易上
ニ必シモ害アルニ非ルハ然レモ改作ノ今日ク急務ニ非ス但尺度ノ數重
ナリ事曲尺ニ種々官製ニシテ私造ヲ禁シ量衡ニ從前ノ如ク
愈堅ク私造ヲ禁シ斤兩ノ名ニ不同不之ヲ一ニシ奸商ノ女ヲ防カ
セラレハソレニテ平民モ安堵ニ記綱モ相之可申儀存候
是亦今日ノ急務ナリ

後
四等士族以上

今般朝廷ヨリ改テ藩制被 所出士平二等ノ外別ニ級アルハナラズ
御名當所改體ニ在テハ御名當ノ所事ニ候依テハ九年未ニ級ノ下士
族ノ名目ニシテ廢止第一等士族ヨリ下士族トシテ一級ノ下士族
級ヲ不設事 格抄者ニ從前ノ一級ノ下士族トシテ一級ノ下士族

○年十一月廿五日歸京後

○同列、

○舊制は昔示一宗 思

○日刊、

然は改制一宗と書弁書は向三序方より

一 新制抄下中向一書

一 新制改草書 一冊

一 新制見 職負姓名一冊 正租雜稅書一冊

中一書は... 法... 石... 其代... 舊... 新... 上... 其... 法... 石... 上... 石... 法...

一 古... 抄... 石... 上... 石... 法...

一 古... 抄... 石... 上... 石... 法...

一 古... 抄... 石... 上... 石... 法...

一 古... 抄... 石... 上... 石... 法...

一 古... 抄... 石... 上... 石... 法...

一 古... 抄... 石... 上... 石... 法...

一 古... 抄... 石... 上... 石... 法...

一 古... 抄... 石... 上... 石... 法...

ノ内ニテト云約ナリ

右ノ申訴ナリ者呼出方裏判云云申出ル者又主者人等
ニテ不申出ル事テハ不申出ル事
○右ノ申訴ナリ者呼出方裏判云云申出ル者又主者人等

右他名控原ノ判云云申出方裏判云云申出ル者又主者人等
將ニ先ノ訴人ノ下ノ申訴ナリ者呼出方裏判云云申出ル者又主者人等
若シテ申訴ナリ者呼出方裏判云云申出ル者又主者人等

一 第廿七條

聴訟才一次ト云云申出方裏判云云申出ル者又主者人等
一 第廿七條
○右ノ申訴ナリ者呼出方裏判云云申出ル者又主者人等

日ヲ指ス

一 第廿九條 但金穀其他貸借ノ訴訟ハ解訟ヲ度トナシ限ルニ旨

日ヲ以テスハカラス云云
右ノ推問ヲ遂情實曲直一決トシ區區方ノ日限ノ所ナク
○按スルニ其通ト聞候
○至極妙解

○ 律ノ申訴ナリ者

一 第廿九條

右他名控原ノ判云云申出方裏判云云申出ル者又主者人等
將ニ先ノ訴人ノ下ノ申訴ナリ者呼出方裏判云云申出ル者又主者人等
若シテ申訴ナリ者呼出方裏判云云申出ル者又主者人等

ノ上宮格ヲ得ノ後律ニ照準シ處置スルハキヤ新律一件ノ意ヲ
有スルハ元同ノ上ナラズモ其意ニ準テトシテ律ノ趣意ノ趣旨
相考答及ノハキヤ兩方アリ但シ度人ニ志ホトノ重刑ニ固テ論事
一本人呼告ハ元同ノ方ナリシ猶伯フヘシ

一流刑以下ハ収録シテ其年トシテモ右今取新律ハ欲告有ハ何シノ
刑ヨリ下リトモ答十謹愼十日等ノ事トモナラズ但シ刑ハ元明ノ意ニ
流刑以下トアル時ハ答一十ナリハ収録スル方ナリシ必明細ニモ及ミテ
大岡ニテ可然

一罪有テ禄ヲ褫キハ犯罪ハ元律内何シノ罪ニ及マテ目的ニ名
相印シ係カ但重罪度人トシテ世禄ハ所取キテモ本人
汁度人ニ歸シ世禄ハ子孫ニ賜カ
禄ヲ褫ハ格別ノ罪ナルヘシ但書ハ何クヘシ

一逃亡ハ元律ノ既ニシテ右考ルヘシテ脱籍シ控案スレハ不得本人モ
復歸セザル時ハ世禄ハ子孫ニ賜カ
何クヘシ

一若シ答ラ蒙ルノ後本人罪ナシ故アツテ又當主トナルヲ得ルヤ否
後嗣ハ答ハ元律ノ既ニシテ何クヘシ

一脱人控案スルニ假令ハ五十日以内ニモ未得本人モ復歸スルニ名定ムルニ
右考ルヘシ得ルハ脱籍ノ罪ヲ當テ若シ歸得スレテ此日限ニ出シハ後
嗣ニ禄ヲ賜フ此日限ノ外定ラズルハ何
何クヘシ

一年目ヲ経テ本人偶復歸スル律ニ照準テ答ラザルカ
元論ナルヘシ

一若シ答ラ蒙ルノ後本人罪ナシ故アツテ又當主トナルヲ得ルヤ否
新律 禁錮限滿テ仍収用スルヲ許スルハ元律ノ意ニ準テ但シ
年月ヲ経テ歸籍スルニ禄ハ子孫ニ賜カ子孫ナクハ取没官不特
即今兵部人ナリ在官中ハ官禄アリ世禄ハ本人ノ世禄ニ準テ答ナリ
當主トナルハ元律ノ既ニシテ何クヘシ

一伎陽ノ外ニ没官ノ外ハ
城外勿論ナルヘシ
大正五年元新律案

○伺身 右向目 中領降新律 儀分奉印

六 凡和女姑各杖七十夫了儿者各徒三年

右士族和女姑者有~~田力~~田力閉門七十日三之女子者
下之贖罪已夫了儿者男禁錮三年三之女子者

七 前在出所夫~~後前~~家事不~~不~~停~~奇~~答有~~一~~七

三 徒~~年~~以內~~先~~後~~元~~者~~收~~贖~~後~~是~~無~~或~~取~~拘~~テ~~贖~~ハ~~他~~下~~

一 淫行~~閉~~門~~禁~~錮~~中~~男~~本人~~或~~家~~族~~病~~死~~七~~日~~送~~葬~~令~~其~~喪~~

二 主~~族~~平~~流~~塚~~ヲ~~犯~~シ~~但~~及~~母~~ト~~ノ~~七~~年~~以上~~及~~度~~馬~~殺~~シ~~テ~~家~~ニ~~侍~~奉~~

昭~~シ~~テ~~收~~贖~~セ~~シ~~タ~~ル~~ハ~~一~~年~~止~~ム~~

十 一~~年~~止~~ム~~士~~族~~平~~流~~塚~~ノ~~輕~~キ~~テ~~子~~孫~~之~~才~~理~~各~~給~~及~~事~~ト~~シ~~

新律取~~廢~~為~~テ~~字~~經~~律~~ノ~~也~~ト~~一~~切~~運~~在~~人~~之~~儀~~ト~~シ~~テ~~其~~儀~~
從~~行~~年~~限~~止~~テ~~淫~~行~~或~~閉~~門~~ノ~~事~~ト~~其~~子~~孫~~之~~才~~理~~區~~分~~ト~~シ~~

九 主~~族~~犯~~取~~贖~~後~~元~~者~~送~~テ~~牢~~ニ~~入~~ル~~必~~シ~~モ~~本人~~ヲ~~引~~向~~セ~~ト~~モ~~其~~輕~~

八 一~~年~~止~~ム~~主~~族~~平~~流~~塚~~ノ~~輕~~キ~~テ~~子~~孫~~之~~才~~理~~各~~給~~及~~事~~ト~~シ~~

五 但~~家~~族~~之~~才~~理~~本人~~不~~辨~~凡~~刑~~月~~ト~~シ~~テ~~程~~限~~ト~~シ~~テ~~下~~ル~~

一 前~~多~~逃~~レ~~テ~~檢~~索~~ス~~ル~~ハ~~不~~得~~家~~祿~~ヲ~~子~~孫~~ニ~~賜~~ル~~本~~人~~刑~~具~~

子~~孫~~之~~才~~理~~ハ~~停~~ム~~ル~~ハ~~不~~得~~

三年止ム
刑年者
凡~~之~~儀

○然し杖尾
馬方三度
宿料
如符之

戒之重位ニテ滴之シク思ハル 其罪名恐喝取財律ニ似タシモ彼五百
丈ハ己シ取クニ非ス。盗私牛馬律似タシモ亦盗タシトモ盗難旅流屋ノ
宿料ヲ不拊ナト甚不條理ノ事ナリ 謹案スルニ不應為ノ律
ニ依テ断ス（中ニ是等ノ事大ニ教化ヲ害シヨリ三行監察ニテ馬
宿料ヲ拊ナト其情ヲ審ニシ刑法掛ニテ断案ヲ判ニテ裁ノ事
即此向アツテ其情ヲ審ニシ刑法掛ニテ断案ヲ判ニテ裁ノ事
亦何尚疑ニ科事アラハ何テ断案ニテ如何

一三人ノ所業ノ如キ一時解心之餘ヲ得ル者得ル者其罪アリ也古
比較ス（キニ條ナク依テ解ノ所ルル者其罪アリ也）戒重又ハ和和
不存其條ハ命位ニテテラルル也 是亦モ罪律ヲ云々若干謹慎
命ノ事

是又甚不行杖ナリ 謹案 罪人ノ律ニ依テ答一十ヲ謹慎一十日ニ
ニ處ス（キカ）

一移地界ノ瓦屍 水中ニ棄ル者杖一石因テ衣服ヲ盜取者賊ニ計ハ移
次ニ準シ重キニ依テ論ス 右重ノ字衣服ニ掛テ互ハ侵合ハ水中
ニ棄ル亦取テ互ハ四十石以内ナレバ取テ所ノ罪ヲ不問棄ル所ノ罪ニ

決取テ又取ル處四十石以上ナレバ棄ル處ノ罪ヲ不處ニテ取テ所
ノ四十石以上ノ罪ニテ重キニ依テ論ス 右重ノ字衣服ニ掛テ互ハ侵合ハ水中
ニ棄ル亦取テ互ハ四十石以内ナレバ取テ所ノ罪ヲ不問棄ル所ノ罪ニ

如何モ注解ノ如クハ已但ニ律四十石以上杖一百五十石以上徒
一年トアレハ四十九石以上杖一百ナリ五十石ナリ徒一年トナリ
四十一石以上ト云ハ誤

一罰刑五 唐人ト為テ所ハ則者罰ト心得ル上ハ唐人トス其入ル
籍所内又ハ御村ノ籍ト新入イタモ、何ハ唯隱カテ取テ唐内ニ住居
スルハ難キ事ナリ

唐人ノ唐内ニ屬シ不都合ナリ 是ハ從前追放ノ唐ニモ可當因テ
市郷ノ中ハ追入シ夫方ト存候

○少多ナリ 三月ナリ 是
以テ武補ノ唐人ト為テ所ハ則者罰ト心得ル上ハ唐人トス其入ル
籍所内又ハ御村ノ籍ト新入イタモ、何ハ唯隱カテ取テ唐内ニ住居
スルハ難キ事ナリ

尾三三
三代之性

十一乙丑年 丙子性 劫出

十二格抄 尾

岸下 一丁

加多 尾

國山 尾 尾

加多

片水 尾 尾

加多

古川 尾 尾

加多

中山 尾 尾

加多

岩井 尾 尾

加多

三多 尾 尾

片石 尾 尾

塘 尾 尾

杉系 尾 尾

井 尾 尾

中田 尾 尾

新 尾 尾

土居 尾 尾

三 尾 尾

171718(3)